

第1回 未来京都・人づくり懇話会

- 1 日時 令和5年5月31日（水） 午後3時00分～4時10分
- 2 場所 ホテルモントレ京都（アークハート）
- 3 出席者 泉谷委員、奥平委員、小畑委員、竹安委員、鳥屋尾委員、野崎委員、山極委員、渡辺委員
- 4 概要

「今後の産業・経済を支える人材確保・育成に関して何が重要で、何が求められるか。」について各委員からご意見をいただいた。

＜主な意見＞

【多様な人材の確保について】

- ・人口減少の進行を非常に厳しく受け止めるべきで、「スマートシュリンク」「ダウンサイジング」などの指針をもって対応すべき。
- ・「デジタル化」、「人への投資」にスピードを上げて取り組むべき。
- ・社会福祉産業の強化が必要。多様な人材の活用実現のためには、社会全体でストレスがかからない仕組みが必要。
- ・社会も企業も生かしきれていないのが「女性」であり、人手不足の即戦力は「女性」である。

【リカレント教育について】

- ・中小企業へのリカレント教育の普及が必要。手間はかかるがニーズに合った教育をし、経営者にリカレント教育は経営の観点からも、また人材確保・定着の観点からも重要だと気づいてもらうことが大切。
- ・リカレントが、企業において評価されるということを見える化し、モチベーションをあげることが大切。
- ・リカレントも中途半端では意味がない。やる気のある個人に支援するなど思い切った視点が大切。

【学生について】

- ・学生が京都で老舗企業から経営を学ぶ機会を作るべき。
- ・起業したい留学生支援のために、法的な支援やサポートが必要。

【柔軟な働き方について】

- ・今の若者は、一つの企業にとどまらない、多拠点という考え。京都が場所を提供し、人の流れの起点となることを考える必要がある。
- ・こま切れ時間を使って働く「ギグワーカー」を検討してはどうか。
- ・中途採用でより生産的に働く方法や柔軟な働き方を模索する必要がある。
- ・医療等の分野でスタートアップしたい人を支援する余地はあるのではないか。

【企業への支援について】

- ・京都企業の資本、ノウハウをシェアする仕組みづくりが必要。例えば、府がプラットフォームを作り、そこに中小企業が集まり、自分達のもつ知恵を共有できる仕組みを構築してはどうか。
- ・社会福祉を産業として、生産性向上などの助成をすることが必要。

【その他】

- ・子育てや産業など個々の施策についてはよく練られているものの、それらをどう融合して府としてどんな街になりたいのか、ビジョンを明確にする必要がある。
- ・府として何ができるのか考えるべき。単に金銭的な支援では周辺自治体と競合してしまう。
- ・観光地としてではなく、生活し働く場所としての京都をアピールする戦略が必要。SNSを活用し洗練された広報が大切。